

2016年4月26日

発信文書

協同総合研究所 2015年度第4回研究会

協同総合研究所 25周年記念 「協同(組合)の原点を訪ねる」研究会①

協同運動の源流を探り、新時代に生かす

一大原幽学・二宮尊徳から学ぶ

一般社団法人 協同総合研究所

開催趣旨

戦後、日本は高度経済成長を通じて、1億総中流社会をつくり、経済的豊かさを手に入れた。高度経済成長時代には、3種の神器と言われる位「モノ」が豊かさの象徴としてあり、物質的豊かさを享受しながら、生活をしてきた。バブル崩壊後、非正規雇用者数、生活保護率、孤独死の増加など、居場所の喪失など、経済的貧困とともに、関係性の貧困が多く生まれている。一方でパナマ文書のようにタックスヘイブン（税逃れ）をする富裕者層の存在、日本銀行券を擦り続けながら、市場に出回るお金を意図的に増やしインフレーションを起こそうとする金融緩和など、お金がお金を生む社会をつくり、生活実感や手ごたえ感がない状況が生まれている。その結果、格差がさらに拡大するなど日本社会は、大きな社会病理に覆われている。「今だけ」「自分だけ」「お金だけ」の世界になり、分断される日本社会になっている。その中で、人々の幸福感が「モノ」からコトに移るなかで、特に近年は「働くこと」「生きること」「学ぶこと」など、人間の根本的な問いを考え始める人が増えてきているように感じている。

分断された社会で、人と人が結びつき、地域をつくり、自分や周りの生き方、働き方を考える上で「協同（心と力をあわせて仕事をする）」は、今の日本社会において、新しい社会を創造する意味でもキーコンセプトではないだろうか。その意味で、日本の協同組合運動の先人たちの歴史や生き方、考え方を学びながら、今、協同が求める時代が、今を生きる私たちは何をしていくのかを問うような、研究会を開催する。またこの研究会は2016年12月3日に開催する「協同総合研究所25周年記念集会に向けてのスタートとなる研究会」として、位置づけたいと思う。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開催概要

日時: 2016年5月21日(土) 13:30~17:00

場所: 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会 8階

A 会議室 ※協同総研事務所の上の階です

資料代: 1000円(会員、学生、障がい者は500円)

講師: 白石 正彦 さん (東京農業大学名誉教授)

白石 正彦(しらいし まさひこ)

1942 年生まれ。九州大学大学院修了。博士(農学)。東京農業大学教授。英国・オックスフォード大学客員研究員、国際協同組合同盟(ICA)協同組合原則・宣言検討委員、ドイツ・マールブルク大学経済学部客員教授、日本協同組合学会会長、全国農協中央会 JA 経営マスターコース・コーディネーター、2012 国際協同組合同年全国実行委員会委員等を歴任。

現在、東京農業大学名誉教授、同大学総合研究所農協研究部会会長、国際農業農村協同組合学会(ISARCS)会長。



専門は、農業経済学、協同組合論、食料政策論。

主な著書として、『地域経済の発展と農協加工(実態編・理論編)』(編著、時潮社)、『協同組合の国際化と地域化』(監修著、筑波書房)、『地域産業の振興と経済—農・工・商複合化政策—』(編著、筑波書房)、『新原則時代の協同組合』(監修著、家の光協会)、『フードシステムの展開と政策の役割』(編著、農林統計協会)、『農と食の現段階と展望』(監修著、東京農業大学出版会)、『日本の農業・6・地産地消と循環型農業』(監修、岩崎書店)、『日本の農林水産業5巻—農林水産業の未来—』(監修、すずき出版) など。

【参加申込】

当日準備の際に人数を把握したいため、5月18日までにメール等で当研究所にご連絡をいただければと思います。宜しくお願い致します。

【連絡先】 協同総合研究所

〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-44-3

池袋ISPタマビル7階

TEL:03-6907-8033 Fax:03-6907-8034

Mail:kyodoken@jicr.org 担当:岩城

